

1 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目 標	取 組 の 内 容	評 価 (最高4)	分 析 及 び 改 善 策 (○…成果、●…課題)
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	<p>1 豊かな心の育成</p> <p>①いじめ、不登校への適切な対応（必須）</p> <p>②道徳教育の充実を図るとともに、友愛の精神を尊重し、思いやりの心を育む</p> <p>③学校行事や部活動を通して、礼節と協調性を養い、たくましい心を育てる</p>	<p>3.8</p> <p>3.6</p> <p>3.6</p>	<p>○学年所属職員を中心に情報を共有し、チームで役割分担を行い、対応している。また、全教員でいじめ対策特別委員会をサポートし、生徒の自主的な活動の日常化を図った。</p> <p>○不登校、不登校傾向の生徒は減少傾向にある。スクール・ソーシャル・ワーカー、外部機関との定期的な等の外部機関との連携を深め情報交換を積極的に行った。</p> <p>○県教育センターより講師を依頼し、評価方法についての研修を深めた。今年度も学級担任だけでなく学年職員が輪番で道徳科の授業指導を行うことで、全教員が道徳科についてより意識が高まった。</p> <p>○制限を受けつつも、2・3年修学旅行、二中祭、体育大会をはじめとした学校行事や部活動で生徒が主体的に活動に取り組んだ。</p> <p>地域部活動に向け、部活動改革を行ってきた。コーチ、部長、保護者説明を行いながら次年度からの完全移行に向け準備を行っている。前例がない分、教育委員会、NSCと密に連携を取り、また、学校で行えることを見極めながら推進していく。</p>
	<p>2 基礎学力の充実</p> <p>①「めあて、まとめ（振り返り）」の完全実施とわかる授業の実践</p> <p>②家庭学習の習慣化</p>	<p>3.7</p> <p>3.3</p>	<p>○「めあて」については、どの授業でも確実に提示されている。教科部会を中心とした授業改善が浸透してきており、発表後も毎時間の中で「めあて」の提示と「深い学び」であったかを「まとめ（振り返り）」を意識した授業を行っている。</p> <p>●生徒から「めあて」を引き出すなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善にさらに力を入れる必要がある。</p> <p>○ながよ検定に向けては、1回目の結果を踏まえ2回目には計画的に進めることができ、教科の枠を超えて学年職員が協力して個別の補充学習に取り組んだ。</p> <p>●生徒アンケートや2年生保護者アンケートでの家庭学習等については私たちもしっかりと対応すべきことである。</p>
	<p>3 健康安全教育の推進</p> <p>①環境美化と整理整頓の指導徹底</p> <p>②アレルギーへの共通理解と対応の徹底</p> <p>③防災や危機意識の涵養と自己防衛意識の指導（メディア安全を含む）</p>	<p>3.5</p> <p>3.9</p> <p>3.5</p>	<p>●朝の玄関清掃や「心トレ（清掃時間）」等、生徒会を中心に活動を行ったが、コロナ禍の中、活動が継続して行えない時もあった。</p> <p>○給食担当、学級担任、管理職などの複数の目で給食における事故の未然防止に努めた。家庭との連携でアレルギー対応の確実性を今後も維持する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染対策やメディア安全教室を行うなど、生徒自身の危機管理意識を高める取組を行った。特に、感染症に関する個人情報の掲載や拡散がないよう注意喚起を繰り返し行った。</p>
	<p>4 特別支援教育の充実</p> <p>①一人ひとりのニーズに応じた支援（必須）</p>	<p>3.6</p>	<p>○定期的に生徒指導委員会や特別支援教育部会を開き、配慮を要する生徒に関する情報を共有した。</p>

<p>② 生徒の実態把握と対応策の策定及び共通理解と共通実践の充実</p>	3.6	<p>○特別支援教育支援員や相談員の記録を全教員で回覧し、生徒の実態把握と支援の仕方について共通理解をもった。</p> <p>●支援の必要な生徒への支援計画、指導計画等をもとに全教員で生徒理解を行う研修の時間のための工夫が必要であった。</p>
<p>5 国際化への対応</p> <p>①人権意識の高揚と豊かな人間関係づくり</p> <p>②日本の文化や地域の理解（各教科）</p> <p>③グローバルな視野を持たせる取組（総合的な学習の時間）</p>	3.6 3.3 3.1	<p>○学期始めにLGBTに関する学習や感染症の対応に関して、個人情報の掲載や拡散がないよう注意喚起を繰り返した。</p> <p>●新たな地域人材や地域教材の活用場面を検討する。 今後は、ICT 機器の活用などを通してグローバルな見方・考え方を育む。</p> <p>●△コロナ禍の中、1年生 NICE（ALT との英語交流）、3年ソボル校留学生と交流等ができない中、3年総合的な学習で外国の方のお話を聞く機会を実施できたことはコロナ禍の中、前進したものではある。</p>
<p>6 教育環境の整備</p> <p>①安全点検の実施と学習環境整備の徹底（PTA、学校支援ボランティアの活動含む）</p> <p>②通信やHPなど学習成果の発信と共有</p> <p>③労働環境の適正化と働き甲斐のある職場づくり</p>	3.6 3.4 3.2	<p>●PTA 本部、もちの木会の協力のもと、運動場草刈り掃作業及び剪定作業を実施した。今年度もコロナ禍の下、PTA や学校支援ボランティア「もちの木会」の活動も制限されたものの、保護者、生徒を交えての除草作業を3年ぶりに行うことができた。</p> <p>●学校日より、学年通信は、継続的に発行できている。学級通信については、学級間で差がある学年もあるため、学習の成果等発信できるよう学年、担任に発行を促していく。</p> <p>○月80時間以上の超過勤務の職員はほぼなくなった。部活動の地域移行をR5年に向け、地域部活動への移行をできる部活動から先行的に移行を始めている。</p> <p>●0.3ポイントほど下がっている。行事、新型コロナウイルス対応等で迅速にそして柔軟に対応してもらったが、先生方に負担をかけたのは否めない。今後もどのように状況が変わっていくかつかめないところもあるが、3学期も全体で対応していく。先生方の働き方、働き甲斐についてしっかりと目を配っていく。</p>
<p>7 教職員の資質向上</p> <p>①指導力の向上（必須）</p> <p>②教科研究と校内研修の充実</p>	3.8 3.7	<p>○夏季休業中に全教員が模擬授業を実施し、教科の枠を超えた相互研修を行った。また、ながよ検定に向けての補充学習など、同僚性・協働性による教科の枠を超えた取組が行われた。</p> <p>○校内研究の活性化により、教科部会を中心とした授業改善が浸透した。</p> <p>新たな研究テーマのもと、キャリア教育について計画、活動の見直し、学年・小中連携について改善を行っている。</p>

## 2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

### （1）成果

- ①昨年度よりも不登校、不登校傾向の生徒は少なくなっている。1年生では、小学校からの支援の必要な生徒の情報の引継ぎ、支援方法等について学年職員の情報共有をしっかりと行ったこと、3年生では別室登校生徒への全職員の声掛けや配慮があつての2学期の状況であった。今後も職員全体の共通理解と共通実践を行うことや家庭との連携はもちろんのこと、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、こども政策課等の外部機関と連携連携を引き続き行っていく。
- ②コロナ禍の下、授業や学校行事等、様々な制限がある中、感染拡大を見通した行事の開催と教科の柔軟なカリキュラムを変更などで対応し、授業を行っている。また、登校できない生徒へタブレットの使用し、授業を配信するなど、学びを止めない学習の工夫を行っている。
- ③道徳の授業に関して、全体で研修も行い、全員で行い道徳も軌道に乗っている。道徳の研修等を全体で行うことで先生方の意識が高まり、授業改善にも積極的である。また、経年経過研修をはじめ、また教科部会等にも力を入れてもらい特に後輩の育成に力を注ぐ先輩教員の姿がうれしい。
- ④働き方改革を一層推進した。放課後の時間を分掌や学年会議、また生徒の補習学習あてることで、月80時間以上の超過勤務の職員はほぼいなくなった。今後は、月45時間超の縮減を目標に、尚一層の業務の効率化、勤務時間の自己管理が求められる。そのために部活動の地域移行がスムーズに行えるよう、部活動改革に教職員全体で取り組んでいく。

### （2）課題等

- ①家庭学習や授業でのノートの活用等には学年によって課題がある。  
学年ごとに見るとその学年の学期の状況が顕著に表れている。2・3年生は7月に比べ多くの項目で伸びがみられている。逆に1年生は7月に比べ全ての項目で数値が落ちている。中学校生活にも慣れ緊張感がややとれたこと、学習面においても学習内容の難易度も上がりそれぞれ学習のやり方に工夫を行わなければならない時期にさしかかり、不安な部分もうかがえる。また2年生保護者のアンケート結果では、家庭での学習、取り組み方に不安を持っている家庭も多い。
- ②タブレットの使用、問題点等についてまだまだ研修を積まないといけないことが多い。また、地域の核となるべき学校として、通信やHPを今まで以上に活用して情報を発信していかなければならない。
- ③日課の変更により「朝学習・朝読書」の時間設定が短くなった。生徒アンケートはこの項目の数値的が落ちている。今後も朝学習は、家庭学習、授業2分前学習と関連付け指導していく。また、読書についてはコロナ禍により昨年度図書室来室貸出冊数の変化はないものの学校生活での読書時間が少なくなっており、教科や家庭での読書習慣の啓発を行っていく。
- ④働き方改革を押し進めながらやるべきことは、仕事の無駄をそぎ落とし、質を高め、見極めることが大切になる。2学期は行事、新型コロナウイルス対応等で迅速にそして柔軟に対応してもらったが、学校評価の職員の働き方についても評価が上がらなかったことをみても先生方にも負担をかけたのは否めない。今後どのように状況が変わっていくかつかめないところもあるが、3学期および新年度も全体で対応していく。

### 3 学校関係者評価

- 不登校が気になっている。成人しても働けない人もおり、不安であるが、今回の学校の取組等を聞くことができ、不登校傾向生徒が減ってきていることは素晴らしいと感じた。話を聞き安心した。
- コロナ禍の状態、中学生が見えてこない状態である。SNSでコミュニケーションが取りづらくなっている。視野が狭くなっていないか。今後心配である。
- 周りを見る目を養えればと思う。コミュニケーション力が大切であると感じる。
- 生きる力が不足していると感じることが多い。礎になる考える力が必要となる。今後、何者になりたいか、・・・税金を学習する取組など、取り入れてはどうか。学校でこんな変わったことができると楽しいと思う。
- 家庭学習の習慣化については、通塾率が高いこともあり、塾に通っているということでの安心感があるのでは無いか？そういった点を考慮しつつ、家庭との連携をとると良い。

### 4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- あいさつについては、3学期の重点課題として挙げており、授業のあいさつからもう一度確認を行った。また、教員が生徒の手本となるよう教員の率先して行い、生徒会活動を通して「心こもったあいさつ」ができるよう全体的な活動に広げていくことを目指し計画、実行している。
- 学力向上に向けた取組  
全国学力学習状況調査、県学力調査の分析のために自校採点を行い、早い段階で把握して校内指導に生かす。また、標準学力調査を、指導の成果検証の指標に据えて、学力向上対策と教職員の資質向上を図る。各教科で今後の指導について具体策を出すよう指導しているところである。
- 家庭学習の習慣化  
分かる授業に向けてさらなる実践を積み重ね、授業を中心として学習の理解を図る。学習事項の定着のために家庭での復習の大切さを家庭と共有し、家庭学習定着のために共同実践を行う。
- キャリア教育については、総合的な学習の時間、学活、各教科、との関わり、各学年間の活動の精選、縦の関わり等が整理されつつある。次年度はより一層幅広く学ぶ機会を作りたい。現在行っている職業・上級学校調べ等にも新たな形を取り入れ、キャリア教育を柱に、生徒が将来、生きがいやりがい、自身の生活を豊かにするものの一つとしての職業選択になるよう、活動を進めていく。